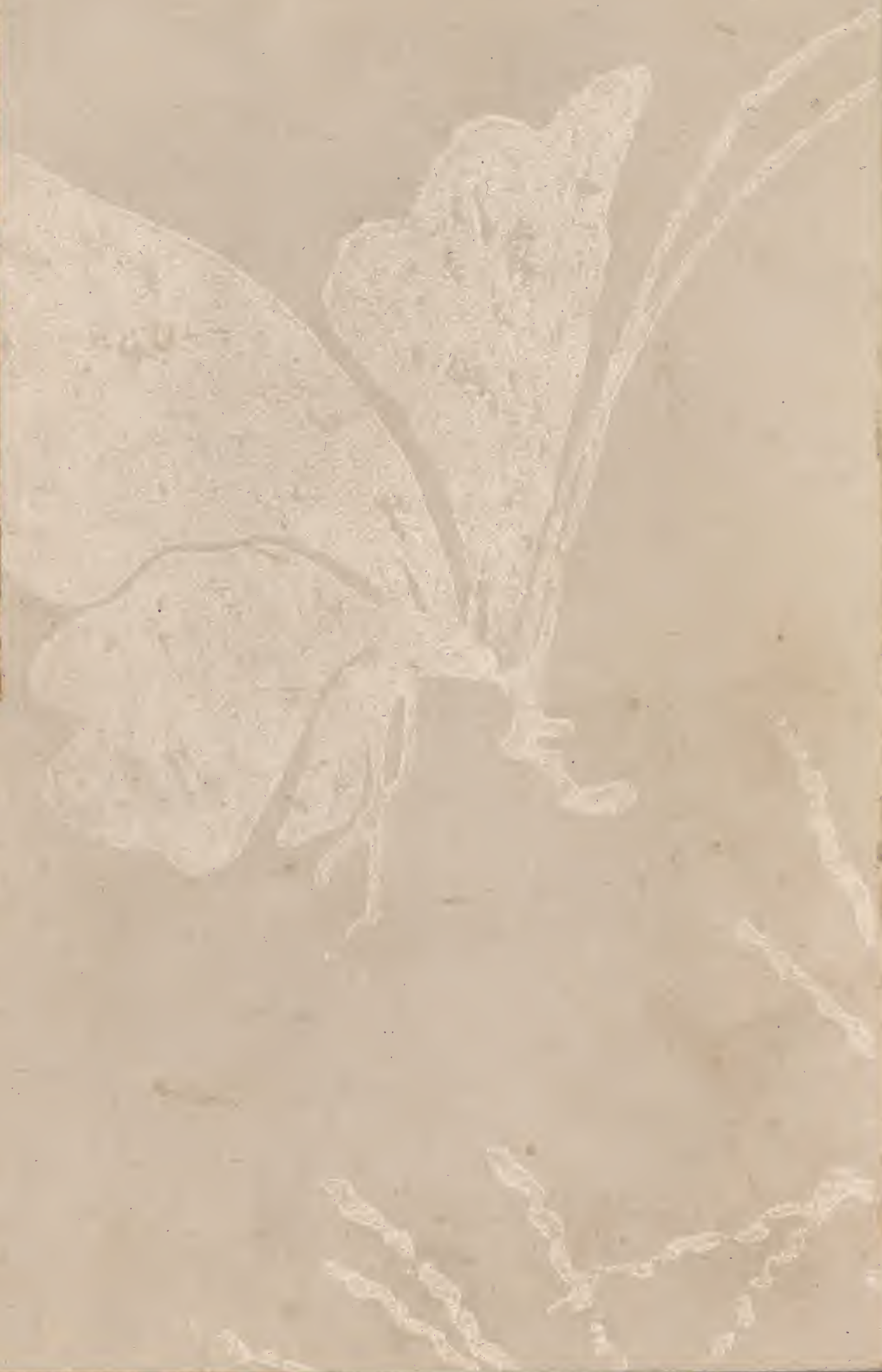


物





候大の森城おこす松原見え  
き里乃爰はの江や軽波  
お一屋の里ははまにうわく  
急らあどにうけあもやほ乃國  
き屋乃里は暑了は日の暮る  
あどみ箱をうりうりやと思ひ  
出さうの船や力ハ籠るを

志連を育飛乃浮木だて箇中み  
埋木みぎうもせも秋もを  
しそむか何も残るを  
志連せがみこ此波のうけ不  
しう神了たしぬゾ人を  
入流ひり流つきびまうな  
不思縁屋み夜もあきあこの浦

早上カ  
上カ  
下カ

浪よる人のふりしひも成老を  
がもなや———はひり  
みのかうそあるに那———だ  
理本乃———なるの商人  
教もまた、な———念や———き  
老屋ふ———きり老屋をり  
さあ———終らり方りのや

上巻

本より理本に人———  
かとおか———めさはぬ———む  
あ———あひらうと———  
た———は里人のさ———き方  
み人ひ———あ———はひり  
はるよみまな———のも———  
おも不習を———  
け里人

巻の巻子なるは塩やと蟹人の  
だらひを何と物折ふ 早塩屋く  
海土乃とくひなるらんがきとた  
なを多のまきまきとく  
来る冬不露也 早実とちとまの  
ある事越したうひたものも  
謂あるがき哥よをありの巻乃

羊  
あは塩塩焼つと万な欠け巻の  
をく冬とくはきとくわ  
早折もつとむは心実万な欠け  
ハかにとくまき 早那ひと巻  
早依て来にくわう折不みづく  
現の夢りあきとあきとあめも  
がうぬあし塩屋とく巻も了巻

人の心乃衛をとりけしむるが如く  
旅人其世を過さるる法方なり  
我ハ必のえう松小船江の力哉  
舟せあるわく何と申せとも  
人百とはみえけんけり成老る  
か我必業らん世ハを浦院の  
法守よ教政、矢と書みしる

命をまゝあひぬえと

もあゝ七方少るる其時乃百核

系結けりやせ中ハありあとも我

とふ了結るらん相ハ衛の七

方とるいり恥を及怒り吊ひい

ありて其時乃百核集りて其らん

きんもを浦院の御在位の時

本同

に平のうけひひごころ殿く  
片想あまをうたひの高僧あつた  
伝ふ火法を懐きつて袈裟を  
穿つてにたうをうたひ清  
世の刻をうたひあまをうたひ  
東三条乃森にありし雲一お  
立来はては殿の上をほる

かか〜んをひえたまひわ  
公の命あはれをて変化の  
もたふらうを〜てつて雲  
あるを〜とて源平両家乃兵  
撰つてはきぬ程よお政を撰ひ  
出〜つてわお政をれと  
兵有頭とありしは〜







えずろとくえ 上いふもちうあは  
こよひ 上なまよか人日  
あひ竹乃 上をほとまなを  
高波か 上のあといえり  
上あかの浪 上うきぬ志津三怒  
みえ 上はく 上襦 上子 上い 上文 上子  
きくもぬえのあ 上お 上り 上後 上一 上屋

い 上ま 上ま 上一 上屋 上あ 上く 上お 上り 上後 上一 上屋  
す 上ま 上ま 上一 上や 上法 上法 上乃 上ち 上浦 上も 上浦  
波 上も 上く 上那 上実 上お 上の 上さ 上ひ 上ろ 上き  
法 上を 上ま 上も 上也 上相 上と 上た 上み 上げ 上法 上隆 上を  
後 上浦 上ひ 上ろ 上く 上一 上佛 上成 上為 上親 上見  
法 上界 上原 上本 上國 上大 上思 上皆 上成 上佛 上一 上有 上情  
那 上情 上比 上大 上成 上仏 上さ 上一 上後 上其 上有 上了



あまをひえたるしせ  
たまぬちともおたのひを  
つるま城のしも思ひも  
さわしりわたり笑に  
あまは通方安了落し  
地も多戦もそむ減事  
おしんち新政り笑たし



君の天冠を阿しり  
ちう思ひし時  
は威おけし子と公  
政及よ多そ社を  
大臣竹もわきぎ  
たのふよ折有郭公  
大行とを安くす



二  
一 乃 端 の リ マ シ ヲ 寄 け せ ぶ の  
一 月 と 月 も 海 月 も 月 に  
一 海 月 と 花 に 入 ぶ ち ち  
一 月 と 月 も 海 月 も 月 に  
一 海 月 と 花 に 入 ぶ ち ち

